

COVID-19 拡大の中、東京医科歯科大学・ガーナ拠点の感染症研究プロジェクトに対し

T.E.N. Ghana MV25 B.V.社より支援継続

～日本とガーナの更なる関係強化と、感染症対策に向けた研究に貢献～

東京医科歯科大学は、2023年1月10日、ガーナにおいて海洋油田開発事業を実施する T.E.N. Ghana MV 25 B.V. 社（MV25 社）より、東京医科歯科大学－ガーナ大学・野口記念医学研究所（野口研）共同研究センターで実施する感染症研究に対する寄付金として 33,025,099 円（250,000USD）を受領しました。

三井海洋開発株式会社、三井物産株式会社、株式会社商船三井及び丸紅株式会社がそれぞれ出資する MV25 社は、ガーナ共和国沖合で FPSO（Floating Production, Storage & Offloading System：浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備）1 基のリース及び運転・保守点検等のオペレーションサービスを提供しており、感染症研究への寄付は 2018 年より 5 年間、継続して行われております。

ガーナ共和国は野口英世博士が黄熱病研究の途上で客死した地であり、野口研は日本政府が野口博士の功績を記念し、1979 年に設立しました。野口研は過去約 40 年間に渡り、日本の研究機関（大学・研究所）との共同研究を通じ、現地の感染症撲滅を目的とした活動を続けています。現在、東京医科歯科大学と野口研は国立研究開発法人・日本医療開発機構（Japan Agency for Medical Research and Development：AMED）の支援のもと、共同研究センターを設置し、「流行地西アフリカ・ガーナ研究拠点における新興・再興感染症基盤研究の推進」を実施しています。プロジェクトでは西アフリカをはじめとした途上国で猛威を振るうデング熱、ウイルス性下痢症、薬剤耐性細菌、ブルリ潰瘍に関する研究を進めており、さらに新型コロナウイルス、マラリアへ研究対象を拡大しています。MV25 社は本 AMED プロジェクトの主旨に賛同し、日本とガーナ共和国の更なる関係強化と、医療研究の発展に貢献することを期待し、COVID-19 拡大にもかかわらず両国の医学研究の懸け橋となる拠点における研究への寄付金提供を今年度も継続して頂けました。東京医科歯科大学は頂いた寄付金を効果的に利用し、現地の感染症対策を強力に推進することを目指します。

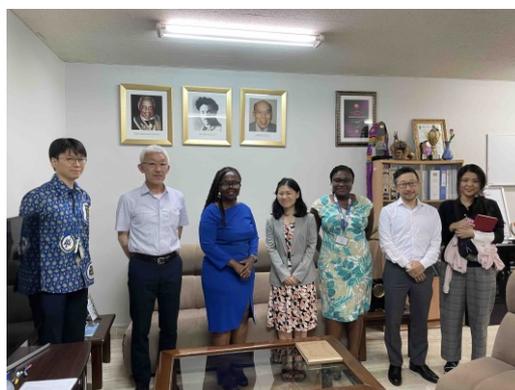


写真 1) 海洋石油・ガス生産中の MV25 社 FPSO

写真 2) 野口研所長室への表敬訪問

（提供：三井海洋開発株式会社）



写真 3)および 4)  
野口研での研究風景